



宮前中だより

さいたま市立宮前中学校
学校通信 No. 6
平成30年 9月28日(金)

さいたま市西区宮前町1467-1 Tel 623-7381 e-mail: miyamae-j@saitama-city.ed.jp

『コーチングとティーチング』

校長 大木 克己

先日の全米オープンテニス大会で、大坂なおみ選手が初優勝したニュースはみなさんご存知の通りと思います。私が以前から注目していた選手で、いつかは大きな大会で優勝すると思っていましたが、こんなに早くテニスの4大会で優勝するとは思いませんでした。錦織選手のベスト4進出とともに久々にスポーツ界でのビッグニュースでした。今後の活躍も期待します。また、大坂選手の活躍を支えたコーチであるサーシャ・バイン（ベイジン）さんの指導方法も話題となりました。彼はドイツ生まれのセルビア人で、幼いころからテニスを始め、ジュニア時代は有望な選手であったそうですが、彼のコーチをしていたお父さんが交通事故で亡くなってしまい、テニスから一時離れ、選手としては大成しなかったようです。しかし、コーチとしての手腕は素晴らしく、今までに彼が指導した選手は何人も年間ランキング1位となっているそうです。彼の素晴らしさは、大坂選手が劣勢の場面や精神的に落ち込んでいるときに、我慢強く会話をすることです。自分の感情をコントロールできず自滅してしまうことがあった大坂選手ですが、サーシャコーチは彼女がイライラしているときは、それを鎮めるようなアドバイスを、うまくプレーができないときは、気持ちの方向性を変えるアドバイスをするなどメンタルに関するアドバイスを的確に行っていました。指導理論では「自分が持っている**知識、技術、経験などを相手に伝えることを“ティーチング”**」と呼び、「問いかけて聞くことを中心とした“双方向のコミュニケーション”を通して、**相手がアイデアや選択肢に自ら気づき、自発的な行動を起こすことを促す手法を“コーチング”**」と呼ぶそうです。人に物事を指導する際に、このティーチングとコーチングを場面に応じて使い分けることが肝心であり、彼は“コーチング”の面で高い能力を発揮しています。このことは、宮前中が現在取り組んでいる研究主題の「主体的・対話的で深い学び」につながるものと考えられます。ところで、私の部活動指導者時代を思い返すと「気合」と「根性」が中心だったなと思います。それが通じる時代でもあったわけですが、今ならもっと上手にコーチングができそうな気がします。

さて、明日から新人体育大会が始まります。新チームになってから初めての公式戦という部活動がほとんどだと思います。選手のみなさんは思う存分「試合の緊張感」を楽しんでほしいものです。今まで苦しい練習に耐え、上手になりたい、相手に勝利したいという気持ちがあるからこそ大会やコンクールで緊張するのです。何も苦労や我慢をしない人は緊張もしないことでしょう。だからこそ、普段は味わえない「緊張感」を楽しんでください。1点（1本）にこだわり、最後の1秒まで走り切る・攻め切る姿を期待しています。宮前中生の健闘を期待します。

